

公財) PMF 組織委員会 御中

**第 26 回パシフィック・ミュージック・フェスティバル2015**  
**来場者調査 報告書**

**2015 年 12 月**

**北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院**  
**研究員 宮部潤一郎**

## 1. はじめに

本年のPMFは7月12日～8月4日を会期として、開催された。世界24国・地域からの85人の若い音楽家が札幌に参集し、音楽監督ワレリー・ゲルギエフ氏の指導の下に研鑽を積んだ。本年も期間中に多くの演奏会が開催され、アカデミー生たちは研鑽の成果をいかんなく発揮し、また聴衆も彼らの熱演に惜しみのない拍手を送った。

PMF演奏会来場者を対象としたアンケート調査は、2014年に北海道大学国際広報メディア・観光学院の学生プロジェクトチームによって実施されたが、2015年も引き続き、時系列の比較が可能となる調査内容として実施した。実施に当たってはPMF組織委員会の協力と支援を得たが、本報告書は宮部の責任でまとめたものである。

このアンケート調査の結果から見えてくるのは、熱心に若い音楽家を支援する聴衆の姿である。今後、長くこの教育音楽祭を存続させていくために、今何をすべきかを考え、実行していく際に参考とすべき多くの示唆が得られたと考える。

演奏会の際に調査へのご協力をいただいた多くの方々に、心から御礼を申し上げる次第である。

## 2. 調査実施及び回収状況

### 1) 調査内容と調査票

### 2) 調査実施コンサート

2015年の調査対象コンサートは以下の6回である。2014年には様々なコンサート形態を対象とするために大通りコンサート、市役所ロビーコンサート、東苗穂小学校で開催された地域ふれあいコンサートを含む8回を対象としたが、2015年は有料コンサートであるキタラ演奏会と芸術の森で開催のピクニックコンサートの6回を対象とした。

- 7月14日(火) PMF ウィーン演奏会
- 7月18日(土) PMF オーケストラ演奏会 (プログラムA)
- 7月19日(日) PMF オーケストラ演奏会 (プログラムA)
- 7月20日(月) バーンスタイン・メモリアル・フェスタコンサート
- 7月25日(土) PMF オーケストラ演奏会 (プログラムB)
- 8月2日(日) ピクニックコンサート

### 3) 回収状況

調査票の回収率は下表のとおりである。2014年は全体で44.5%であったが、2015年もほぼ同様の回収率となり、参加者の関心と関与意向の高さを再度確認することとなった。

PMF2015アンケート配付・回収状況

月	日	曜	No.	コンサート名	配付数 A	回収数 B	回収率 B/A
7	14	火	1	PMFウィーン演奏会	425	205	48.24
	18	土	2	PMFオーケストラ演奏会 (プログラムA)	1,192	526	44.13
	19	日	3	PMFオーケストラ演奏会 (プログラムA)	1,021	502	49.17
	20	月	4	バーンスタイン・メモリアル・ フェスタコンサート	1,348	581	43.10
	25	土	5	PMFオーケストラ演奏会 (プログラムB)	1,218	480	39.41
8	2	日	6	ピクニックコンサート	2,334	830	35.56
計					7,538	3,124	41.44

### 3. 集計結果分析

本年度のPMF来場者調査には3,124名の回答協力があり、回収率は41.4%という高率であった。このこと自体、PMFへの来場者の熱意と積極的な関与の姿勢を示すものである。以下、サンプル総数3,124件の結果を考察する。

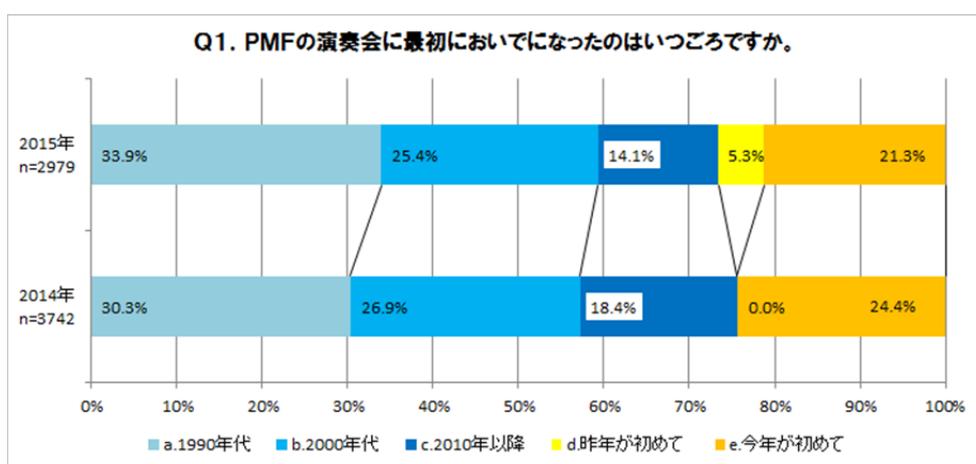
#### 3-1 設問1 PMF演奏会への初来場時期

設問1ではPMFの演奏会に初めて来場したのは何時ごろかを尋ねている。この設問はPMFへの関わりがいつから始まっているのかを確認し、また、新たな聴衆を獲得できているのかを確認するものである。

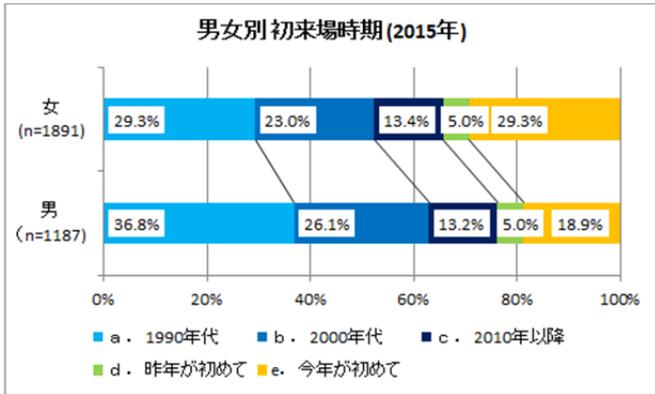
結果は、32%、概ね3人に1人はPMFの初期、1990年代に初めて参加としている。この回答は必ずしも毎年参加を意味しないが、複数回の参加実績を持たれていることを示している。また、24%、概ね4人に1人は2000年代に初めて参加である。比較的最近の2010年代の参加は、合わせて39%であるが、うち5%は昨年からの参加、20%は今年が初めての参加である。

ここから、長期間にわたりPMFに関心を寄せる聴衆が存在することを確認できるとともに、本年も新たな聴衆を獲得できていることも確認できる。本年の調査では“昨年初めて参加”という選択肢を設け、新たに参加した聴衆の、すべてではないにしても、一定数を翌年以降にPMFに回帰させていることを確認した。これらの結果をまとめると、聴衆の入れ替わりが継続して実現していることを示している。

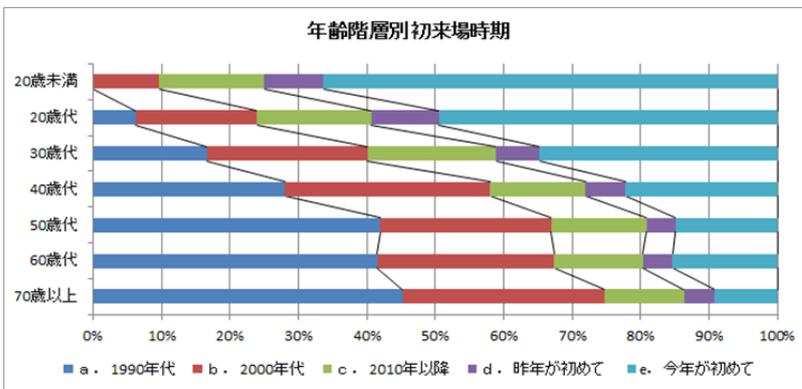
2014年は24%が初来場で2015年の21%より高い比率であったが<sup>1</sup>、これは昨年が25周年の特別プログラムであったことが影響していると考えられる。



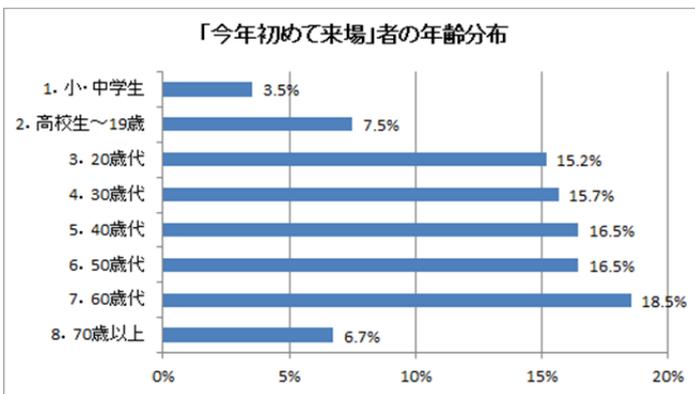
<sup>1</sup> p = 0.0024 < 0.01 で差は統計的に有意。



男女別の動向を見ると、1990年代からの参加は男性の方が7%ポイント高く、逆に今年初めての参加者では女性の方が10%ポイント高くなっている。



年齢別で見ると、当然のことながら若年層では最近年での初参加の比率が高いが、40歳代以上の年齢層でも初参加が10~20%存在する。



また、“今年初めて来場”と回答した634名について年齢を確認すると、絶対数の少ない19歳以下は少ないものの、高齢層に偏るのではなく、ほぼ年齢層に関係なく新規の来場者を獲得していることがわかる。つまり、今後長期にわたりPMFを支える可能性のある年齢層を新規に獲得できて

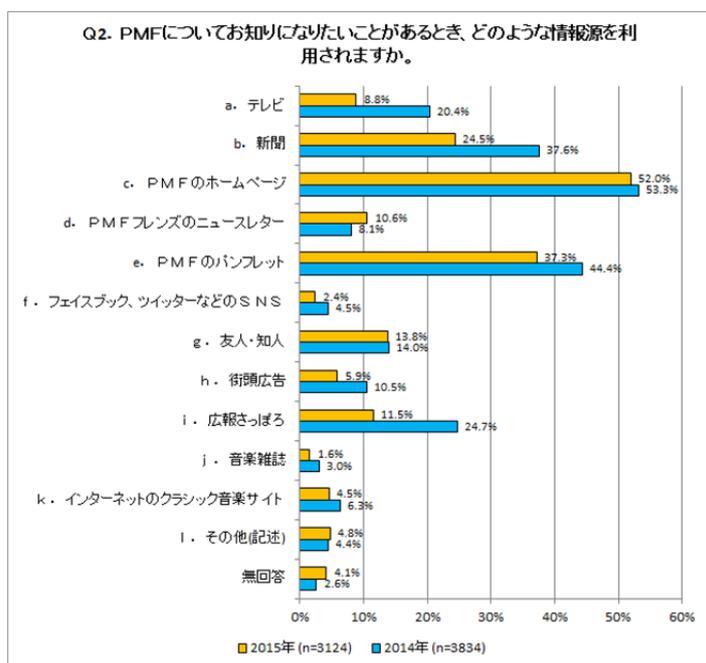
いることを示している。換言すると、長期にわたり顕在化する支持層を維持できるかどうかは、20歳代、30歳代の新規来場者を獲得し続けることが出来るかどうか依存していると言えよう。

### 3-2 設問2 PMFに関する情報源

PMFについて知りたい時に利用する情報源は、ホームページ、パンフレット、新聞が

3大情報源である。この傾向は2014年調査と変わらないが、新聞、テレビの利用比率が大きく低下している。2014年はPMF 25回記念として様々なメディアへの露出が多くあり、マスメディアを通しての情報接触の機会が多かったためにこのような結果となったと考えられる。

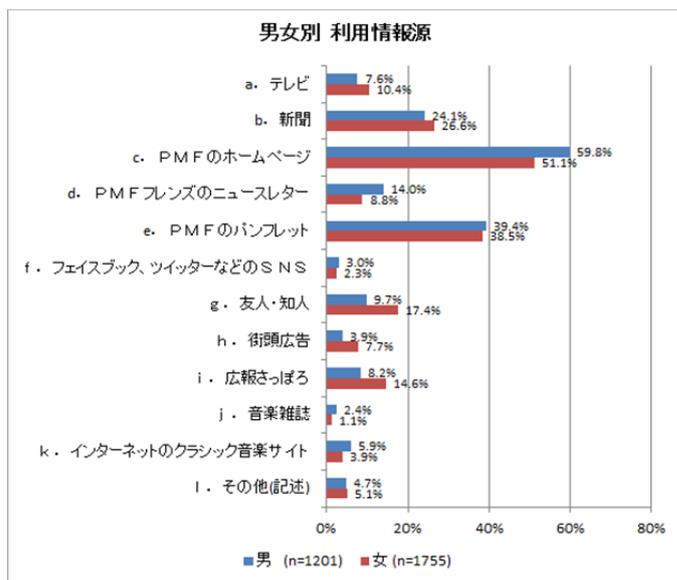
また、広報さっぽろも2014年は約25%が利用していたが、2015年では12%と比率を下げている。回答者の属性によるクロス集計で状況を確認したが、特定の階層で利用率が低下していることは無く、全体的に利用率が低下した。2014年とほぼ同様の情報提供を行っているため、この利用率低下の背景を推測することは本調査の範囲を超えることになる。



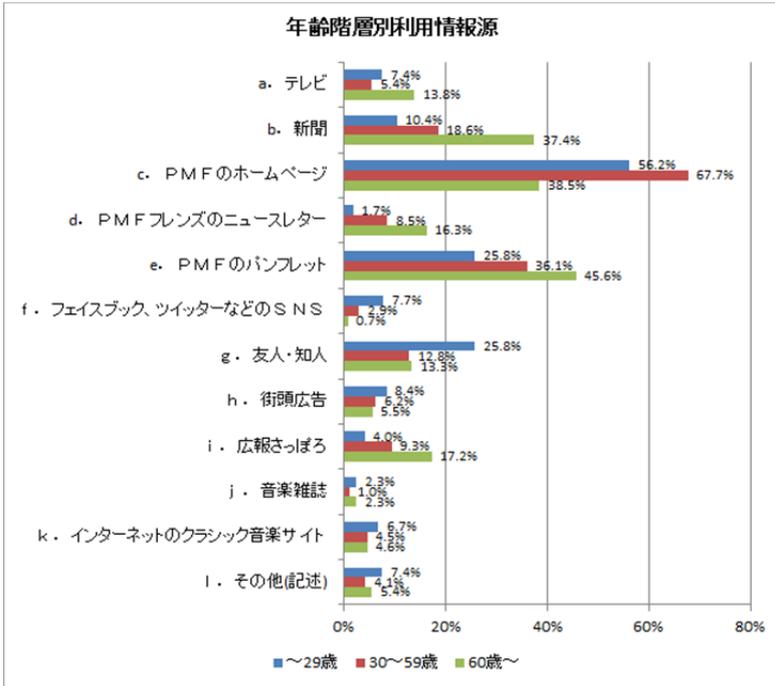
高齢層を含む大変多くの方がインターネットアクセスを持たれている現状から考えると、半数以上の方がホームページを利用されていることは容易に理解できる。PMFのパンフレット、新聞に次いで、友人・知人からの情報、広報さっぽろ、PMFフレンズのニュースレターが続く。

インターネットメディアおよび自ら発行するパンフレットに注力するだけでなく、これらへのアクセスを持たない潜在的な聴衆に如何に接近するかを考える

の必要があろう。

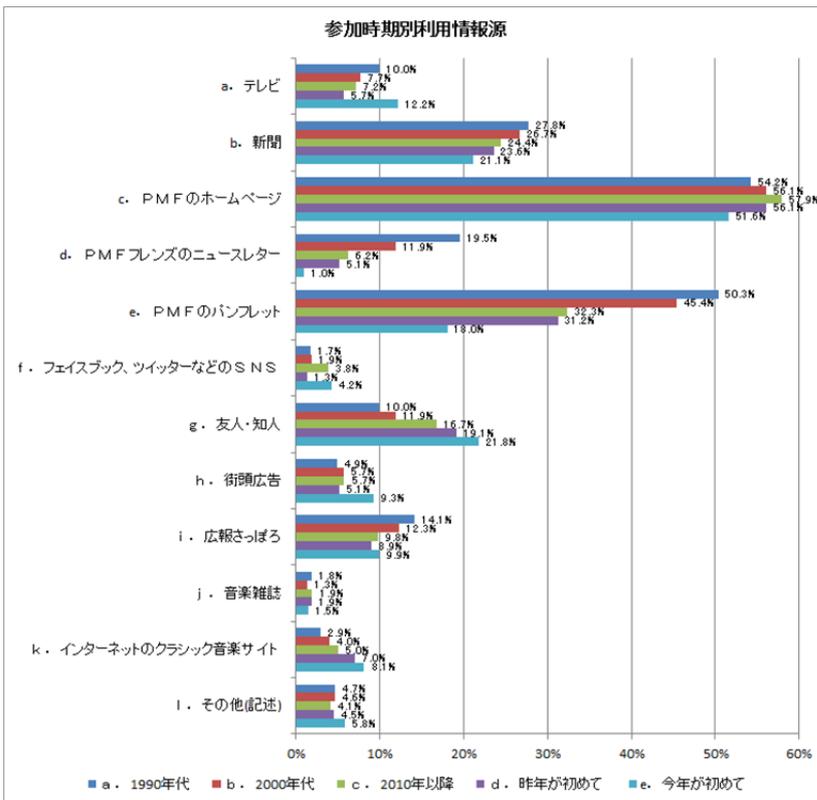


男女別の利用情報源を見ると、若干の違いを見ることが出来る。男性はホームページへのアクセスを約60%が利用しており、女性の51%を9%ポイント上回る。対して、女性は友人・知人からの情報、広報さっぽろの利用が男性を上回っている。このような情報接触に関する男女差を認識しておくことは、今後の情報提供において、意味のあることだろう。



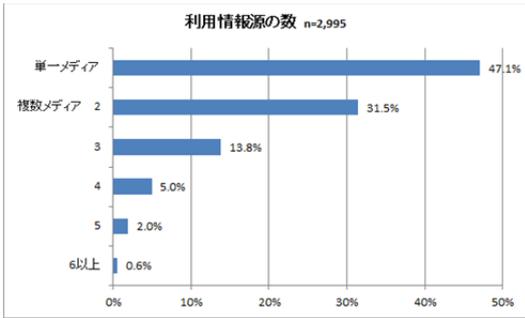
次に年齢階層別に利用情報源を見ると、世代間の差が顕著である。例えば、新聞の利用は、29歳以下では10%に過ぎないが、60歳以上では37%である。PMFパンフレット、広報さっぽろでも同様の強い傾向がみられる。

29歳以下で“友人・知人”を情報源とする比率が他の年齢層と比較して突出しているが、これは家族を含むものと理解できる。



また参加時期別では、年齢階層別とはやや異なる傾向を見ることが出来る。すなわち、新聞、PMFパンフレット、広報さっぽろでは、参加時期が古いほど利用率が高くなる傾向がある。この結果の一つの解釈は、PMFへの接触が長い人ほど情報源の所在が分かっている、それにアクセスしていると考えられる。あるいは、新聞や広報さっぽろの利用では、PMFに関する基礎的な理解があるために、

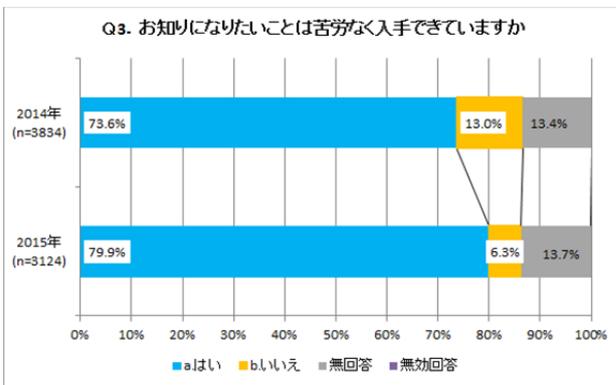
関連の記事に目が留まりやすいということであろう。



設問 2 は複数回答であるので、利用情報源の数を確認できる。そのような集計をしてみると、47%が単一の情報源のみの情報に依存し、32%が 2 種類の情報源を利用していると回答した。3 種類以上の情報源を組み合わせで利用している参加者は 20%に過ぎない。

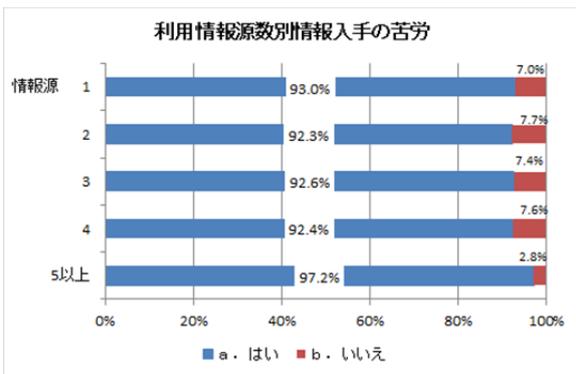
### 3-3 設問 3 情報発信に対する評価

情報発信状況の評価は、良好である。約 80%が知りたいことは苦勞なく入手としている。



2014 年調査と比較すると、情報入手に苦勞したという回答は 13%から 6%に半減している。この点も 2014 年が 25 回記念の特別の年であったことで解釈できる。すなわち、初めての参加者が相対的に多かったこと、多くの演奏会が開催され、複雑なプログラムであったことから、必要な情報にうまくアクセス出来

なかつたり、確認したいことが確認できなかったというケースがあったと推測できる。それに対して、2015 年は言わば平常年の開催であり、演奏会プログラムやその他のイベントも比較的シンプルになったことを反映していると考えられる。



情報入手にあたって問題を感じた（苦勞なく入手に対して“いいえ”と回答）比率を利用情報源の数別に整理すると、ほとんど差が無いことがわかる。この結果は、複数のメディアで提供される情報に差は無く、したがって複数の情報源の利用によって追加的に得られる情報は少ないということを示唆している。情報の利用側から見ると、

多くの異なる情報源にアクセスしなくとも良いということであろう。

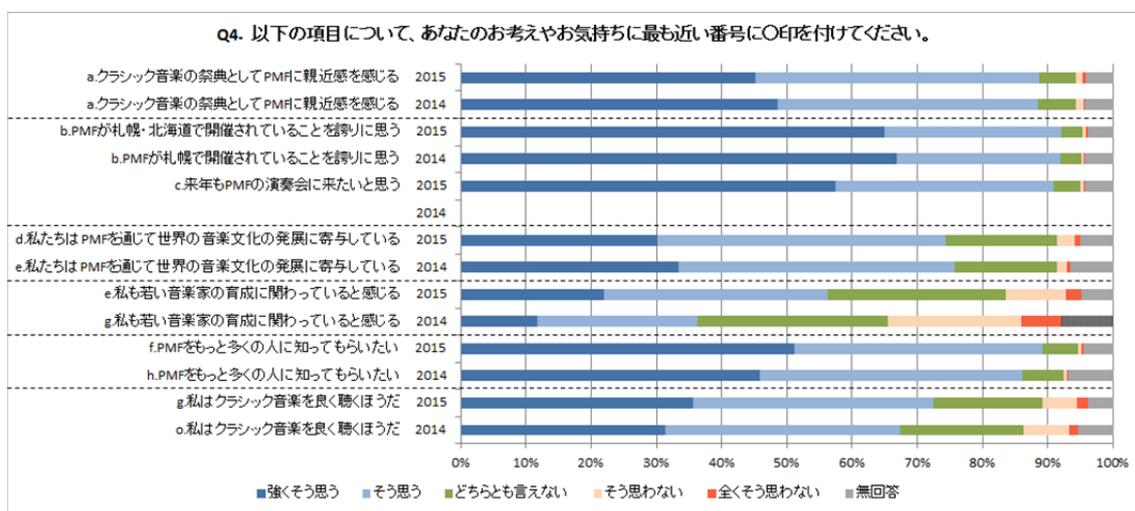
### 3-4 設問4 PMFに関する意識

2014年調査と比較して、大幅に設問項目を減らして尋ねたが、全体的な傾向は2014年と同様である。

b、c、fの各項で「強くそう思う」が50%を超えており、「そう思う」を含めると90%に達する。PMFの開催が強く支持され、参加者自身に関わるとともにより多くの人に認知されることを意識している。

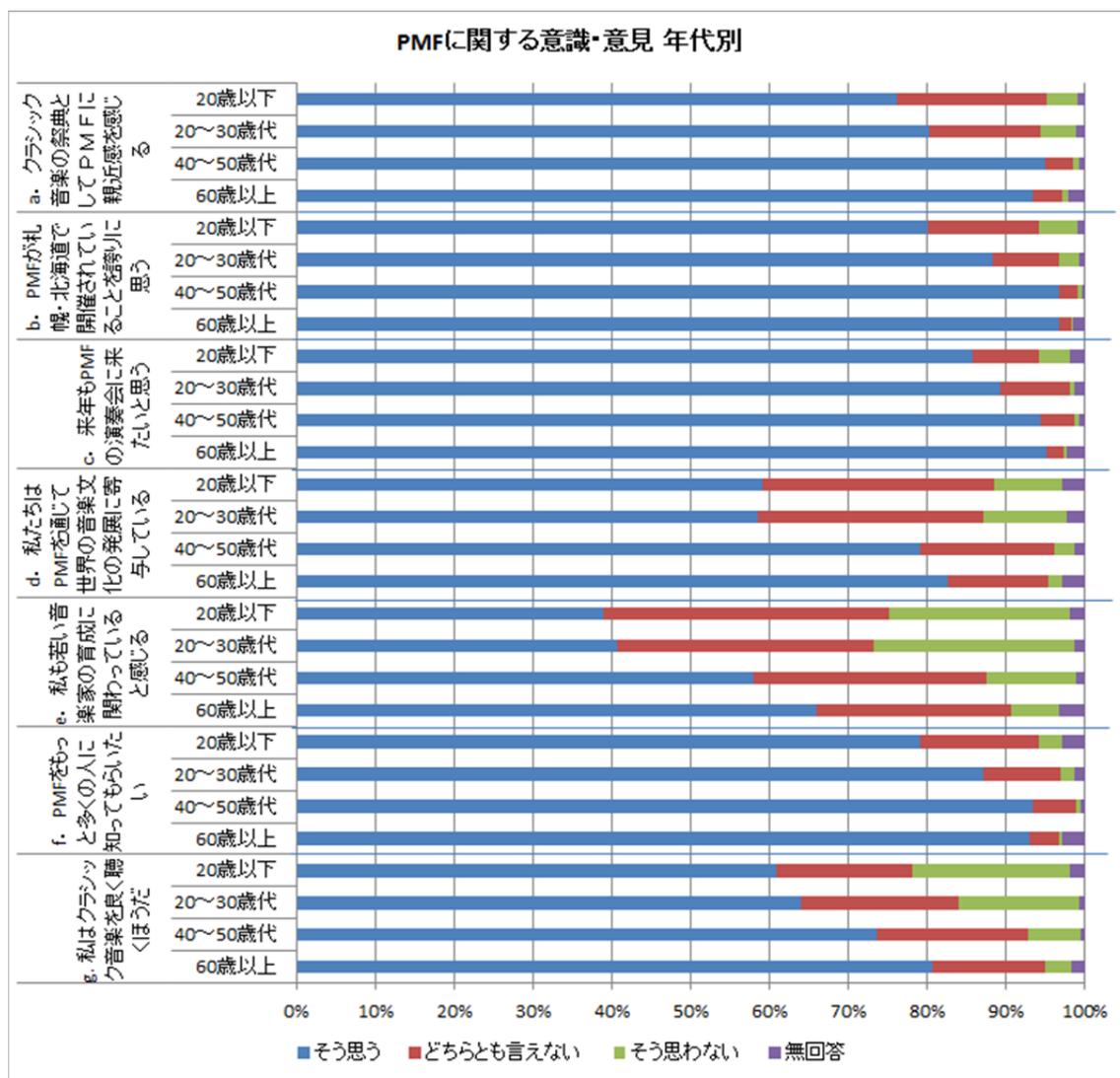
一方、d、e項は他の設問項に比較すると積極的ないし肯定的回答が低い結果となっている。この二つの設問項目はPMFの理念や活動目標を深く理解していないと肯定的意見を持ちえない内容である。演奏会だけに参加しているとこれらのことは目に見えるわけではなく、実感することが出来ない内容である。それでもd項では30%が「強くそう思う」とし、44%が「そう思う」としている。さらに、e項では一般的な認識を尋ねるのではなく（「私たち」ではなく「私も」と尋ねている）、回答者に対して「あなたはどう思うか」と尋ねている。より積極的な関与の意識を尋ねていることになる。それでも22%が「強くそう思う」とし、「そう思う」を合わせると56%が肯定的な回答をしている。四半世紀を経てPMFの理念や目標が広く理解され、定着していると言うことが出来る。このことはe項においても「そうは思わない」という否定的な回答が10%に満たないことから確認できる。

新たな四半世紀を踏み出した現在、このような理解と共感を持続し、より強固なものとしていくことが課題である。



年齢階層別に回答を見ていくと、30歳代以下と40歳代以上で回答に差が認められる。肯定的な回答は40歳を境にして高齢層で高く、若年層で低い結果である。特にd、e項では20%ポイントの差がついている。上述のとおりこれらの項目はPMFの理念や目標を理解していないと肯定的には答え難い設問であり、そのような理解の醸成にはある程度の時間がかかる。それゆえ、高齢層＝PMFに長く接している、ということであるとすると高齢層で

肯定的な回答比率が高くなることは理解できる。一方、30歳以下の階層に対して十分にPMFの理念や活動目標を訴求しているか、という問いかけはこの結果から意味あるものと言えよう。PMFを永続的に開催していくための基盤づくりとして、常に理念や活動の意義を発信し、問いかけていくことが必要であろう。



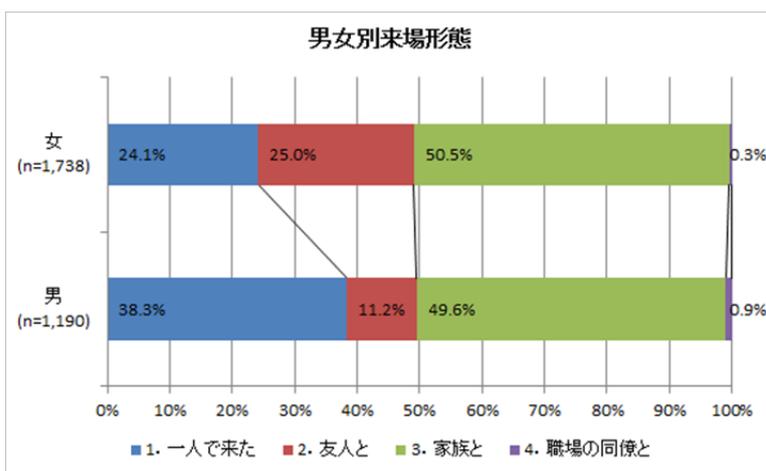
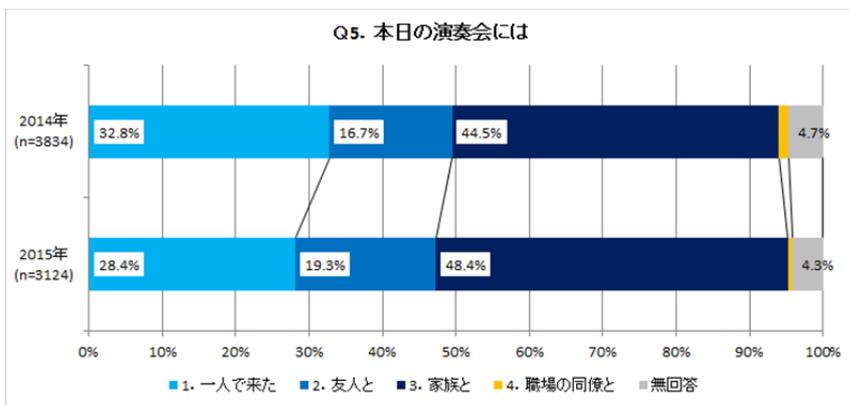
### 3-5 設問5 来場形態

昨年度調査ではフェースシートに組み入れた設問であるが、本年度は設問の一つとした。約半数が家族との来場である。家族とともに演奏を楽しむという姿勢が見え、そのことはPMFの趣旨にも合致すると考えられる。2014年と比較すると、“家族とともに来場”が増え、“一人で来た”の比率が低下している。

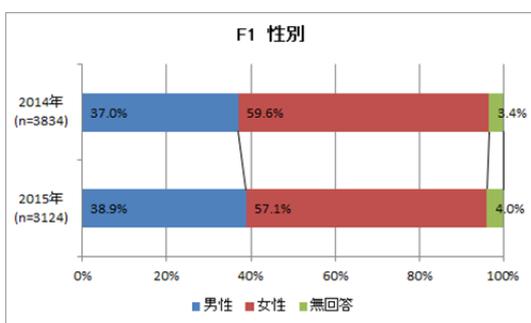
なお、合計が100%を超えているのは、複数回答（“友人と”と“家族と”の両方に回答）

が 28 件あるためである。

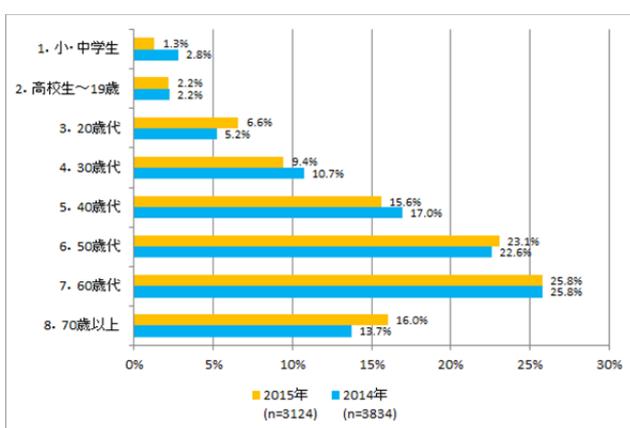
男女別に来場形態を見ると、女性は友人とともに来場が 25%、一人で来場が 24%となっているのに対して、男性は友人と来場は 11%と少なく、行動の特性が見て取れる。



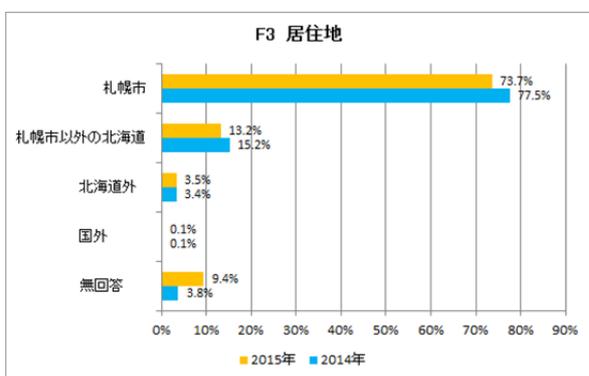
【フェースシート】 回答者の基本属性



性別：2015年調査では男性39%、女性57%であった。2014年調査から男性の比率が2%ポイントほど上昇した。



年齢階層：50歳代以上が過半を占める状況は変わらないが、2015年では20歳代の比率が高くなっている。また、小中学生の比率が2014年と比較して半減しているのは、調査対象の演奏会に地域ふれあいコンサートが含まれていたためである。

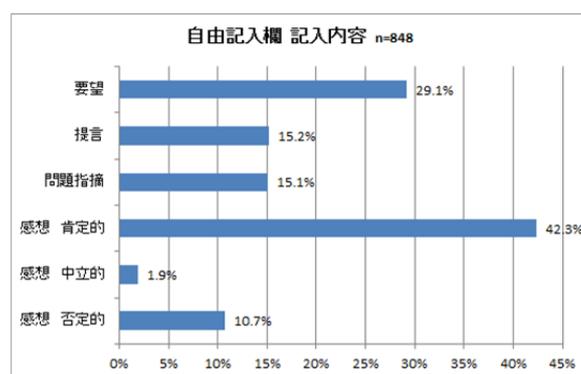


居住地：参加者の3/4は札幌市民で占められている。道外からの参加者は4%弱に止まっている。

### 【自由記入欄】

設問6、自由記入欄への記入は、848件、回答数の27.1%であった。回答の内容を読み込み、『要望』、『提言』、『問題指摘』、『感想 肯定的』、『感想 中立的』、『感想 否定的』の6項目で評価した。なお、一つの記入で複数の内容を持つものがあるために、複数項目で評価されたものが存在する。

- ・要望：“〇〇を演奏してほしい”、“〇〇でもコンサートを開催してほしい”、“料金を安く”といった記入を要望として分類した。
- ・提言：“〇〇をするべきである”、“〇〇を実行すれば・・・”といった内容の記入を提言として分類した。
- ・問題指摘：“〇〇について改善を望む”や運営についての記入を問題指摘とした。
- ・感想 肯定的：“感動した”、“来年も来たい”といった内容の記入を肯定的な感想とした。
- ・感想 中立的：肯定的とも否定的ともとれない記入を中立的な感想とした。
- ・感想 否定的：“〇〇で残念”、“不便を感じる”といった記入を否定的な感想とした。「残念」という記入をキーワードとして、それに類する記入を分類した。



肯定的な感想が42%とおおよそ半数を占める。次いで様々な要望が29%である。提言と問題指摘が15%である。要望と提言の内容は様々であり、すべてが対応可能なものではないことは明らかだが、運営にあたる組織委員会には一つ一つ目を通す必要があるだろう。

問題指摘について、128件の記入があったが、そのうち101件がピクニックコンサートで回収した調査票に記入されていた。ピクニックコンサートでは830件の調査票が回収され、そのうち327件の自由記入欄に記入があったので、記入率は31%で他の演奏会と比較して高率となった。その内容を見ると、76件、記入の23%が会場でのテント使用に関するものであった。ピクニックコンサートでの問題指摘の大半がこの問題であったことに留意する必要があるだろう。多くの参加者がテント使用を問題と認識した。

#### 4. まとめ 2015年調査から得られる示唆

##### ① 演奏会来場者の確保

2014年、15年と2年連続で来場者調査を実施したが、毎年新規の来場者を獲得できている様子が見えてきている。この点は今少し調査を継続して確認する必要があるが、2015年調査によって第25回記念という特殊事情ではなかったことを確認できた。今後は新規来場者を獲得し続けるとともに、リピーターの拡大に努めていくことが必要であろう。

##### ② 情報提供のあり方について

多様な情報源を組み合わせでの情報入手行動は少なく、1ないし2の情報源の利用が大半である。また、情報入手に関する不満は少なく大きな問題とはなっていないと考えられる。ただし、参加時期別に見たときにPMFのホームページではさほどの差が無いのに対して、PMFのパンフレットでは利用率に大きな差がある点に留意したい。既にPMFについてよく知る人は情報入手の手段を知っているのに対して、そうではない人は情報源の探索から始めなければならない。インターネットへのアクセスを持つのであれば、検索を試みる事が出来、PMFのサイトは容易に見つける事が出来る。一方、この調査結果からパンフレットへのアクセスが難しいことを示唆している。

また、男女別、年齢階層別の利用情報源から媒体別の提供情報についての考慮事項を検討することが出来るだろう。多くの人が複数の情報源を利用することはないことから、基本的な情報は多様な媒体で発信する必要があると考えられるが、その表現形態やプレゼンテーションについては検討することが出来るだろう。

##### ③ 永続的な支援基盤の構築強化に向けて

PMFが今後長期にわたって札幌で開催されるための最大の条件は、市民からの支持があることだろう。来場者調査からは強固な支持基盤が存在することが確認できるが、これはある意味では当然のことである。演奏会への参加という積極的な行動をとること自体が支持の表現であり、そのような行動を選択した人たちが支持を表明することは当然である。この点を念頭に置いて調査結果を見る必要があるだろう。

PMFの理念や活動目的に関する理解と共感について、年齢階層別で見ると有意な差が確認できる。このギャップはPMFへの参加が継続すれば、いわば自然に解消されていくであろうが、PMFに対する市民の支持基盤を維持強化するという観点から、積極的に関与していく姿勢があっても良いだろう。

<付属資料>

## 2015 年調査 調査票

# 2015年 PMF演奏会に関する来場者調査

PMFはこれまで多くの方々に支えられて歴史を積み重ねてきました。今後、さらにPMFを発展させていくために皆様の率直なご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。この調査は、公益財団法人PMF組織委員会が実施しています。

Q1. PMFの演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990年代    b. 2000年代    c. 2010年以降    d. 昨年が初めて    e. 今年が初めて

Q2. PMFについてお知りになりたいことがあるとき、どのような情報源を利用されますか。該当する項目全てを○印でお示してください。

- a. テレビ    b. 新聞    c. PMFのホームページ    d. PMFフレンズのニュースレター    e. PMFのパンフレット  
f. フェイスブック、ツイッターなどのSNS    g. 友人・知人    h. 街頭広告    i. 広報さつぽろ    j. 音楽雑誌  
k. インターネットのクラシック音楽サイト    l. その他(具体的にお教えてください \_\_\_\_\_)

Q3. お知りになりたいことは苦勞なく入手できていますか。    a. はい    b. いいえ

Q4. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b. PMFが札幌・北海道で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c. 来年もPMFの演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5
g. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5

Q5. 本日の演奏会には    1. 一人で来た    2. 友人と    3. 家族と    4. 職場の同僚と

Q6. PMFに関してご意見等がありましたら、ご記入をお願いします。

\*\*\*\*\*

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。該当する番号に○印でお答えください。

あなたは    1. 男性    2. 女性

あなたの年齢は    1. 小・中学生    2. 高校生～19歳    3. 20歳代    4. 30歳代  
5. 40歳代    6. 50歳代    7. 60歳代    8. 70歳以上

<ご協力を誠にありがとうございました。裏面にもお答えください。>

# PMF2015来場者の支出に関する調査

本日は、PMF2015のコンサートにご来場いただき誠にありがとうございます。

札幌市は、多様な文化芸術を享受できるまちづくりを目指し、市民が様々な文化芸術を楽しみながら実践し、表現・発信できる環境づくりを推進しております。

この調査は、PMFが開催されることによる経済効果を測定し、今後の札幌の文化行政の発展のために活用いたします。

皆さまのご協力をお願いいたします。

## Q1. 皆さまにお尋ねいたします

- 居住  札幌市内  
 北海道内 →  道南・ 道北・ 道東・ 道央（近郊）  
 北海道外 → 都道府県名（ ）  
 国外（国名： ）

## Q2. パッケージツアーに支払った代金 ※パッケージツアー以外の方はQ3以降にお答えください

交通機関、宿泊、食事などがまとまったパッケージツアーの代金を挙げてください。

- ツアー代金（宿泊あり） 0---1---2---3---4---5(万円) それ以上 約( )円  
 ツアー代金（宿泊なし） 0---1---2---3---4---5(万円) それ以上 約( )円

## Q3. 会場までの移動に利用した交通機関（複数回答可） ※パッケージツアーの方は記載不要です

会場までに利用した交通機関をすべて挙げてください。

### 市内での移動

- JR・地下鉄・市電 片道 0---1---2---3---4---5(百円) それ以上 約( )円  
 バス 片道 0---1---2---3---4---5(百円) それ以上 約( )円  
 タクシー 片道 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円

### 市外からの移動

- 航空機 片道 0---1---2---3---4---5(万円) それ以上 約( )円  
 JR 片道 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円  
 バス・タクシー 片道 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円  
 その他 片道 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円

## Q4. 宿泊される方 ※パッケージツアーの方は記載不要です

札幌市内で宿泊

- する → ( 泊) 宿泊料(一泊) \_\_\_\_\_ 円  
 しない

## Q5. その他の支出

PMF会場での物品購入や飲食代などの支出予定額を教えてください。（チケット料金は除く）

0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円

本日のPMF来場前後の食事やお土産代など、PMF会場以外での支出予定額を教えてください。

- 飲食費 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円  
 市内交通費 0---1---2---3---4---5(百円) それ以上 約( )円  
 お土産 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円  
 その他 0---1---2---3---4---5(千円) それ以上 約( )円

《《ご協力ありがとうございました。裏面にもお答えください》》